

# 観光建設農林常任委員会行政調査報告書

令和6年12月12日

白浜町議会議長 溝口 耕太郎 様

観光建設農林常任委員会

委員長 小森 一典

令和6年9月13日付け委員派遣承認要求書に基づき承認された行政調査について、下記のとおり実施したので報告いたします。

## 記

- 1 調査期間 令和6年10月28日（月）から  
令和6年10月29日（火）まで
- 2 調査場所 (1) 沖縄県石垣市  
(2) 沖縄県南風原町  
(3) 沖縄県八重瀬町
- 3 調査事項 (1) 第2次石垣市観光基本計画について  
(2) 持続可能な公共交通について  
(3) 南城市・八重瀬町地域間連携体プロジェクトについて
- 4 委員氏名 委員長 小森 一典  
副委員長 堅田 府利  
委員 廣畑 敏雄  
" 水上 久美子  
" 長野 莊一
- 5 調査内容及び概要 別紙のとおり

(別 紙)

## 調 査 内 容 及 び 概 要

調 査 日	令和6年10月28日(月)
調 査 場 所	沖縄県石垣市
調 査 事 項	<p>◆第2次石垣市観光基本計画について</p> <p>石垣市では、令和4年3月に第2次石垣市観光基本計画を策定し、石垣市の魅力ある地域資源を活かし、観光関連団体や市民団体など、観光に関わる全ての関係者が連携・協働することにより、交流人口・関係人口の拡大とそれに伴う消費による観光を通じた経済の活性化を図ることで、活力あふれる観光まちづくりの実現を進めており、その取り組みについて調査する。</p>
概 要 及 び 調 査 内 容	<p>◆市の基本情報</p> <p>(1) 人 口 49,840人(令和6年5月末現在)</p> <p>(2) 面 積 229.15km<sup>2</sup></p> <p>◆市の概要</p> <p>石垣市は、日本の最南西端に位置する八重山諸島の主島・石垣島と尖閣諸島などの13の無人島からなり、その面積は229.15km<sup>2</sup>。八重山圏域全面積(592.4km<sup>2</sup>)の約39%、沖縄県全面積(2,282km<sup>2</sup>)の約10%に相当する。石垣島から各地までの距離は、沖縄本島(那覇市)約410km、大阪約1,590km、東京約1,950km、稚内市(北海道)約2,820km、そして隣国台湾(台北)まで約280kmとなっている。</p> <p>亜熱帯海洋性気候と島嶼群からなる自然的特性を活用し、日本最南端の自然文化都市として、農業、畜産業、水産業、観光業を中心に経済活動が営まれており、年間約137万人(平成30年観光入域客数)の観光客が訪れている。</p> <p>【行政調査の様子】</p>  

概要及び  
調査内容

◆第2次石垣市観光基本計画について

(01) 計画策定の意義

近年、社会の国際化や高度情報化などに伴って、観光を取り巻く環境は大きく変化しており、旅行者のニーズや価値観は多様化している。また、新型コロナウイルス感染症により大打撃を受けた観光産業を再び活性化するためには、ウィズコロナ・アフターコロナと回復の段階を見据えながら、石垣市に相応しい観光振興の方向性を明確にすることが必要である。

以上のことから、石垣市では、交流人口・関係人口の拡大により地域経済を活性化し、持続可能なまちづくりを実現するとともに、石垣島の八重山観光の拠点としての位置づけをより明確にし、役割を今後も担っていくため、そしてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みに沿うものとして、本計画を策定する。

(02) 計画に期待される役割

- ①石垣市らしい観光のあり方を地域全体で共有すること
- ②10年後のビジョンを共有すること
- ③基本方針と個別の施策がまとめられていること
- ④観光振興に携わるすべての人にとっての指針となること

(03) 観光を取りまく近年の社会情勢

- ①新たな旅行・観光スタイルへの変化
- ②インバウンド需要の伸び
- ③地球温暖化が与える影響
- ④SDGsが与える影響
- ⑤国内の人口減少が与える影響
- ⑥技術革新
- ⑦ユニバーサルツーリズムの促進
- ⑧観光に起因する都市への弊害への注目
- ⑨感染症の蔓延と観光リスク

(04) 石垣市の観光産業の現状

①宿泊業

単価向上に向けた付加価値の向上、連泊の誘導による泊数の向上に努めている。また、脱プラや光害対策、リネン管理等においてSDGsを意識した取り組みを展開している。コロナの影響で稼働率が一時激減したが、教育旅行の再開により、復調の兆しもあるが、予断を許さない状況。

②旅行業

概要及び  
調査内容

依然として団体客も多く、クルーズ船寄港等、インバウンド最盛期には、観光インフラの容量超過により国内団体客等の受入れに影響することも。個人客も増加し、自然・文化資源を楽しんでもらう際の事業者としてのコントロールが効きにくくマイナスな事象が発生した。身体的距離を担保できるアウトドア系観光商材のニーズの高まり等、新たな潮流への転機を感じている。

③観光施設

いわゆる白タクや半グレ等、望ましくない事象への対策や、遊泳危険区域等、地域の決まりごとの観光客への周知徹底等、規制や誘導に課題を感じる。コロナが与えた影響は、来訪動向が読めず、常時雇用を維持することが難しく離職につながってしまうネガティブな側面もあれば、客数の減少により一人当たりへの接遇の丁寧さの向上というポジティブな側面もある。

④運輸業

クルーズ船が入港すると急激な需要増にバス・タクシーの供給が追い付かない。さらに平常における運転手の人材不足も深刻である。温室効果ガス排出が避けられない業界だからこそ、環境負荷への配慮策を模索している。コロナ以降、「安全・安心」が重要視され、添乗員付きの丁寧なツアーのニーズが高まっている。

⑤小売業

ツアー行程遵守のための商品の買いそびれや、リピーター獲得のための旅アト施策としてWEB販売を展開している。島外において、原産地不当表示や類似商品などのトラブルが存在している。コロナの影響により、消費動向や志向性が変化し、職場等でお土産として配ることに適している個包装菓子等のお土産の売上げが激減し、家庭や食卓で楽しめる商品の売上げが増加した。

(05) 各種課題への対応状況

①航空旅客

航空路線増便に向けた新石垣ターミナル整備の促進や石垣市観光交流協会、YVBと連携した誘客プロモーション活動に取り組んでいる。

②宿泊許容量

新規宿泊施設の開業のほか、既存宿泊施設の拡張が収容人数拡大を牽引している。

③観光関連人材の確保・育成

観光人材育成を目的とした市内の高校生を対象としたプロ

<p>概要及び 調査内容</p>	<p>プロジェクト「Chura★I」を実施し、若い世代の人材育成に取り組んでいる。</p> <p>④個人消費額の増加 個人消費額を増加させるため、石垣らしい質の高いお土産や飲食サービスの開発等について、飲食店や宿泊施設への呼びかけや働きかけを行っている。</p> <p>⑤島内波及の向上 島内での経済波及効果をより高めるため、地域資源を活用した商品開発から販売など、6次産業化による域内調達率の向上に取り組んでいる。</p> <p>⑥柔軟な体制の構築 石垣市観光プラットフォーム会議を実施し、石垣市・観光交流協会・YVB等関連団体との連携を深め、市民にも広く参加いただき態勢強化に取り組んでいる。</p> <p>(06) 理念と将来像</p> <p>①理念（いつの世でも普遍的な“あるべき姿”） 石垣島が、世界が認める優れた自然・文化価値を有する場、人種や国籍などに拠らないあらゆる人が交流する平和と自由を体現する場として、いつの世までも地球上に存在し続けるために、石垣市民は、地域発展の源泉としての豊かな自然と共生するために敬意を払い、先人から受け継いできた独自の文化を守り、資源として育む。さらに、アジアの交流結節点としての地理的優位性を活かしながら、地球市民としての責任を持って、地球的課題に同じ想いや共感を示す外からの来訪者と共にチャレンジし続ける。</p> <p>②将来像（10年後の“あるべき姿”） 近年、観光客もツーリズムを構成する要素であると捉え、観光客が意識や行動に責任を持つことで、より良い観光地形成を行っていくという考え方に基づく、これからの観光の形として、レスポンスブルツーリズムへの注目が高まっている。市民と来訪者同士が尊重し、理解することによるシンパシー（感情の同一性）や、お互いが幸福を感じられることは、石垣市の将来像の実現にとって、より一層重要になっている。同様に、多様性（ダイバーシティ）の幅もより広がっており、包摂的（インクルーシブ）な精神の重要性は今まで以上に高まっている。 これらを踏まえ、本計画を通じ目指す10年後のあるべき姿として、以下のとおり将来像を設定する。 『持続可能でより良い社会を求めて世界中の人々がつながるまち～石垣島の未来は地球の未来～』</p>
----------------------	--

概 要 及 び 調 査 内 容	(07) 将来像の実現に向けた行動指針と施策体系	
	基本 目 標	<b>【環境分野】</b> 自然と共存し健康で快適な生活のための 良好な環境を創る観光まちづくり <b>【経済分野】</b> 市の発展に貢献し市民生活が豊かになる 観光まちづくり <b>【社会文化分野】</b> 誇りと責任ある行動の輪で創る希望 に満ちた観光まちづくり
	基本 方 針	1 温暖化対策、脱炭素へ向けた取組 2 都市機能と自然資源、生活環境との共存 3 消費単価及び域内調達率の向上 4 新型コロナ禍からの経済回復 5 観光業界の人材不足解消や労働環境の改善 6 観光客と地域の良質な接点づくり 7 S D G s 等新たな潮流への対応 8 市民協働による観光まちづくりの推進
基本 施 策	① 円滑なモビリティの導入 ② 多角的な脱炭素等の取組の推進 ③ 地域発展の源泉の保全 ④ 魅力ある景観形成の実施と体制づくり ⑤ 観光施設の適正な管理 ⑥ 地域特性を活かした新たな魅力の掘り起こし ⑦ 顧客満足度の向上 ⑧ 観光による地域貢献の可視化 ⑨ 地域と観光の循環的発展の推進 ⑩ 観光客の島内滞在時間延伸 ⑪ 変化に即応したビジネスモデルへの転換 ⑫ 観光産業強靱化の推進 ⑬ 誘客多角化の実践 ⑭ 専門的知見を有する人材確保 ⑮ 観光地力の底上げ ⑯ マスツーリズムから質を重視した施策への転換 ⑰ 顧客とのつながりの選択的強化 ⑱ レスポンシブルツーリズムの推進 ⑲ S D G s への多角的な対応の促進 ⑳ シビックプライドの涵養 ㉑ 観光まちづくりへの理解・参画の促進 ㉒ 協働による観光まちづくりのための体制づくり	

<p>委員長所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<p>○石垣市は、1997年(平成9年)に『観光立市宣言』をされて以降、飛躍的に観光産業が伸長し、市の基幹産業として位置づけられ、現在に至っている。また、2010年(平成22年)には、第1次観光基本計画を策定し、基本計画に基づいた今後10年間の観光産業に関する方策及び方針を打ち出した。</p> <p>石垣島は、元来、八重山諸島に位置するため、観光誘客の交通体系は、主に飛行機であり(一部、クルージングや大型客船もあるが)、旧空港(滑走路1500メートル)では、大型旅客機の就航が困難であった。その結果、観光需要の増加に伴い、2013年(平成25年)3月に新空港(2000メートル)が開港し、その際に計画された目標は、年間利用客が100万人であった。2015年度(平成27年度)には、既に年間112万人の利用者があり、目標は達成され、観光消費額は、580億円余りに達し、大きな経済的恩恵がもたらされている。</p> <p>しかしながら、第1次観光基本計画が終了する2020年には、世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、観光業を基幹産業と位置付けている石垣市も大打撃を受けた。また、近年の国際化や高度情報化に伴って、観光を取り巻く環境は大きく変化し、旅行者のニーズや価値観が多様化しているため、観光基本計画の見直しが急務となった。そこで、2022年(平成4年)には、「石垣市らしい観光のあり方を地域全体で共有すること」「10年後のビジョンを共有すること」「基本方針と個別の施策(目標と施策)がまとめられていること」「観光振興に携わるすべての人にとっての指針となること」を期待して、第2次観光基本計画が策定された。同時に、台風、地震、津波、航空機・船舶事故、感染症等を踏まえ、観光産業に負の影響を与える危機事象について、『観光危機管理計画』も策定し、周辺地域も含めて、安心・安全・快適な観光地としての価値を維持することが出来るよう取り組みを始めている。</p> <p>観光産業に関する石垣市の予算額は、年間3億円程度で、その内2億円は市民会館の管理に関する財源のため、実際にはあまり多くは充当できないようであるが、昨今、クルーズ船の入港及びインバウンド客の増加に伴い、その対策に財源を充当しなければならない。また、人手不足の解消、観光業への意識高揚、地域経済の循環など、今後取り組んでいかなければならない課題が山積しているようである。</p> <p>最後に、石垣市の今後の取り組みに関しては、観光地の整備、並びにオーバーツーリズムの対策などに対して、法定外目的税として宿泊税等を導入するなど、新たな財源を生み出していかなければならないようである。そうしたことで、質と量のバランスの取れた高付加価値の観光産業を構築できるよう取り組まれていたことが非常に印象に残った。</p>
-----------------------------------	---

<p>委員所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<p>○石垣市は、温暖で過ごしやすく、豊かな自然と恵まれた景観から多くの観光客がリゾート地として、また流行りのワーケーションとして注目されている。また、離島のため、観光客が島に来る手段は主に空路と海路に限られている。職員の話では一日の定期便は約20便で年間100万人。それに加え大型クルーズ船が160回ほどで50万人が来られるという。</p> <p>白浜町も海に面してはいるものの、クルーズ船が着岸できる場所がないので、新たな玄関口として検討してはと考える。しかしながら、クルーズ船利用客は、現地で宿泊することがないため、独自の体験施設や観光スポットがないと寄港すら難しいかもしれない。</p> <p>観光地として急成長する過程において、その町の観光に対する計画が様々な課題を通して策定されており、その一つが「石垣市観光基本計画」であり「石垣市観光危機管理計画」である。石垣市はその地理上、台風などの自然災害の影響を受けることや、観客の移動手段である空路や海路の安全な運航に支障をきたす可能性があることから、観光に対する危機想定に取り組まれている。</p> <p>白浜町でも先日の南海トラフ地震臨時情報にあるように、白浜町の観光の危機管理計画を立てて、観光客に適切な誘導と安心してもらえる対応ができるように、行政や観光施設、宿泊施設などと情報を共有できるようにしていきたい。</p> <p>○観光基本計画のもと、それを支える観光危機管理計画を作成している。感染症や毎年の台風による被害の発生、その大型化、地震、津波など、自然災害や船舶事故などで被害を被ってきた観光産業への減災対策や、観光客などへの情報発信、避難誘導、安全確保、このような事例への迅速な対応について、観光危機に6つの対応策を具体化して、官民の体制を構築している。中身として「危機管理プラットフォーム」を構築し、普段からの連携を進め、対応するようになっている。この細かな点は取り入れるべきと思う。</p> <p>石垣空港への外国からの乗入れは、香港便は週5便、台北からは週2便となっている。このような中、上陸した方々に差し向けるタクシー、バスの運転手が不足して対応できかねているとのこと。白浜空港もまず大型化ではなく、国内各地、また韓国、香港、台北などからの便をつくっていくことができないか。今の空港を生かしたインバウンドの取り組みが必要ではないかと感じた。</p> <p>○アフターコロナに向けた地域経済の回復と今後の活性化を見据えて基本計画を策定され、観光を地域全体で共有されている。</p> <p>観光基本計画が策定されて、市の観光資源、現状、これまでの取り組みと成果、検証を知ることによって今後の観光戦略、行動指針につ</p>
----------------------------------	---

<p>委員所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<p>なげている。また、観光危機管理計画も策定され、観光危機の事象や安心安全な観光地としての目的も明記されていて参考になる。</p> <p>観光産業においては、常時従業員の雇用が難しく、運転手などの人手不足がある。大型フェリーやクルーズ船の寄港では、シャトルバス対応等による人材不足等、財源が結び付いていない課題がある。</p> <p>I C T技術をどのように観光政策に位置付けるかを課題とし、D X化を推進して先端技術を取り入れた観光商品が注目を集めている。多様なニーズに対応できるユニバーサルツーリズムの促進を進めているが、交通問題、ごみ問題などのオーバーツーリズムへの課題がある。</p> <p>○白浜町においても、観光地経営に必要な専門人材の確保と有資格者（文化・言語・その他）の育成が必要だと考える。また、より質の高いサービスや観光コンテンツを提供できる目的地となるためには、観光施策に関わる人材の確保が必要だと感じた。</p>
----------------------------------	--

(別紙)

## 調査内容及び概要

調査日	令和6年10月29日(火)
調査場所	沖縄県南風原町
調査事項	<p>◆<b>持続可能な公共交通について</b></p> <p>南風原町では、交通課題への対策として、令和4年7月に「南風原町交通基本計画」、令和5年7月に「南風原町総合交通戦略」を策定し、「誰もが快適に移動しやすい交通体系のまちづくり」を基本理念に、持続可能な公共交通体系の構築に取り組んでいる。</p> <p>その中でも、令和6年7月から、日常生活を支える定額型の「相乗り型オンデマンド交通」の実証運行を開始しており、本実証運行を通じ、町内の移動ニーズを把握することで、新たな公共交通の導入に向けた検討を進めており、その取り組みについて調査する。</p>
概要及び調査内容	<p>◆<b>町の基本情報</b></p> <p>(1) 人口 40,994人(令和6年7月末現在)</p> <p>(2) 面積 10.76km<sup>2</sup></p> <p>◆<b>町の概要</b></p> <p>南風原町は、沖縄本島南部のほぼ中央に位置し、県内では珍しく海に面しておらず、面積は10.76km<sup>2</sup>、県内41市町村で4番目に小さな町である。</p> <p>畜産を中心とした農業、織物などの生産が村の発展の原動力となり、近年は、那覇市に隣接する地の利を得て、工業や企業の進出により着実に発展を続けてきている。</p> <p>【行政調査の様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div>

<p>概要及び 調査内容</p>	<p>◆持続可能な公共交通について</p> <p>【地域公共交通の現状と課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 住民の生活を支える公共交通環境の形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は増加傾向にある中、高齢者人口の割合が増加しており、今後増加が見込まれる運転免許返納者等の生活を支える移動手段の確保が必要</li> <li>・南風原町の北部地域の地形は高低が大きく、高齢者の徒歩や自転車での移動が困難であり、地形に影響されない移動手段の確保が必要。</li> </ul> </li> <li>2 町内外の公共交通が連携した利便性の高い公共交通ネットワークの形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・南風原町を通過する路線バスは、主に横断方向の幹線道路がルートとなっていることから、町内の縦断移動や幹線道路から外れた公共交通不便地域を考慮した移動手段の確保が必要。</li> <li>・町民の日常移動のニーズは、主に町内に位置しているが、一部のニーズにおいて、町縁辺部（町外）もあり、細かな移動ニーズに対応できる移動手段の検討が必要。</li> </ul> </li> <li>3 観光移動を支援する交通環境の形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場が不足する町内の観光施設の移動を支援する移動手段の検討が必要。</li> </ul> </li> <li>4 住民の公共交通利用促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民ワークショップにおいて、高齢者の自宅（目的地）からバス停までの移動課題が指摘されていることから、高齢者の徒歩移動の負担軽減を考慮した移動支援システムの検討が必要。</li> <li>・町が実施しているタクシーチケットを用いた移動支援について、登録率、利用率が低い傾向となっていることから、移動困難者が利用しやすい移動支援システムの構築が必要。</li> <li>・バス停へのアクセス性の課題から、町民の移動手段が自家用車に偏っている。バス停へのアクセス性向上を図り、公共交通への転換を促す検討が必要。</li> </ul> </li> </ol> <p>【A I オンデマンド交通の導入目的】</p> <p>地域公共交通の現状と課題を受け、誰もが使いやすく、日常生活を支える「相乗り型オンデマンド交通」を定額で提供することにより、移動しやすい環境を整えることを本実証運行の目的とする。</p> <p>本実証運行を通じ、地域の事業者と連携し、まちの活性化を図ると同時に、移動データの共有などを通じて、既存公共交通との相乗効果</p>
----------------------	---

<p>概要及び調査内容</p>	<p>を高め、将来に向けて安心できる持続可能な移動サービスの提供を目指す。</p> <p><b>【A I オンデマンド交通 実証運行の概要】</b></p> <p>1 営業区域・運送の区間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南風原町全域（10.76km<sup>2</sup>）及びその周辺施設（南部徳洲会病院、与那原中央病院）※町外から町外への運行は行わない。</li> </ul> <p>2 運行経路</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予約に基づきシステムが自動生成した経路を運行（A I オンデマンド型交通）</li> </ul> <p>3 運行車両</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セダンタイプ車両（乗車定員1～4名） 2台</li> </ul> <p>4 運行態様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した区域内にアプリ上で仮想乗降場所を設定し（約360か所）、運行ルートは定めず自由経路で運行する方式。</li> <li>※仮想乗降場所の設定については、利用者の意見を柔軟に反映させるため、年1回程度、営業区域内かつ道路運送法上車両を停車させて問題ない箇所について事業者側で調整を行う予定。</li> </ul> <p>5 実証期間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年7月1日～令和7年2月28日（予定）</li> </ul> <p>6 運行時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行時間帯：9時～19時</li> <li>・運行間隔：1台1時間あたり最大4便を目途に運行</li> </ul> <p>7 予約方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンアプリまたは電話</li> </ul> <p>8 運賃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通運賃：大人（500円）、小児（250円）、幼児（2名まで無料）</li> <li>・乗り放題パス：大人・小児（5,000円）、家族会員（500円）</li> <li>・回数券：大人・小児（6回分・2,500円）</li> </ul> <p>9 支払方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現金またはクレジットカード</li> </ul>
-----------------	---

<p>委員長所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<p>○南風原町は、総合計画において『みどりとまちが調和した安全・安心のまち』を掲げ、町内道路のネットワーク整備、公共交通の利便性の向上及びユニバーサルデザインの推進を目指している。さらに、都市計画マスタープランの目標の中で『誰もが快適に移動しやすい交通体系のまちづくり』に取り組んでいる。また、南風原町は、沖縄本島南部の中央に位置し、那覇市に隣接していることから、南部地域や中北部地域移動における交通の要所となっており、近年では、町内を通過する幹線道路が整備され、都心部へのアクセスも良いことから、那覇市のベッドタウンとなり、人口増加が著しい。しかし、都心部へ向かう交通量が増え、度々、幹線道路での渋滞が発生し、生活道路への通り抜け交通による安全性の低下や人口増加に伴う交通量の増加、高齢化による移動困難者への対応、地域内公共交通ネットワークの不足等があり、公共交通の整備が喫緊の課題となっている。</p> <p>そこで、持続可能な公共交通を形成し、様々な交通課題を解消、実用化していくため、2022年(令和4年)に南風原町交通基本計画を策定し、翌2023年(令和5年)には実施計画として南風原町総合交通戦略を策定している。交通基本計画を策定する際、住民アンケートや地域でのワークショップを行った結果、ルートや乗降場所、予約時間の自由な設定が可能なAIオンデマンド交通が採用されることとなり、全国の自治体での先行事例があることや、システムの最適距離が南風原町のほぼ全域をカバーできること、仮想乗降場所は設定や維持管理がしやすく、サブスクなどの料金プランが採算性の面でも優位性があるという判断のもと、『m o b i』を採用し、本年7月1日から2025年2月28日まで実証運行を実施する経緯となった。</p> <p>m o b iの利用者総数は、4,000名を超え、その内訳は、サブスクが3,000名、残り1,000名はワントimeや回数券となっている。この1,000名の中には、料金を徴収しない幼児が350名含まれている。実施して以来、住民には非常に好評であり、その主な理由は、料金設定が低額な上、町内350か所に乗降場所が設定されており、比較的スムーズに移動できること、午前9時から午後7時まで長時間運行していること等が挙げられている。しかしながら、AIオンデマンド交通の実証運行は3年間の期限があるため、南風原町としては、3年間の実証運行で利用ニーズや採算性の効果検証を行う予定であるが、国県の補助金が単年度であり、今回の実証運行に係る経費が約4,000万円であること等を考えると、次年度以降の財源確保が大きな課題となっている。</p> <p>今後、どのような交通体系を構築していくかについては、十分な検証が必要となってくるが、昨今の少子高齢化、人口減少を踏まえ、移動困難者が増加していくことを考えるならば、非常に価値ある公共交通システムであることは言うまでもないだろう。</p>
-----------------------------------	---

<p>委員所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<p>○南風原町が取り組んでいるA I オンデマンド「m o b i」は、町内事業者のタクシー2台を効率よく運用しているものである。利用者がスマホアプリや電話で時間と行先を予約すれば、A I を使って予約した人を順番に迎えに行き、目的地へ送ることができる。オンデマンドなので車内では知らない人と同乗することもあり、利用率の低下も懸念されたが、現在600人ほどの登録があり、利用者も述べ4,000人ある。今後、ロコミなどで益々利用者が増えることが期待できそうに思うが、運行費用が利用者の負担とならないように設定されているので、国や町の補助がなければ継続できるのかということが心配点である。</p> <p>白浜町も同じ課題から、いろんな実証実験を実施しているが、何か一つの事業で解決できるものではなく、その町の特色や人口動態などから複合的に取り入れていく必要があると思った。</p> <p>○町の特徴として、人口の増加が続いているが、高齢化率も高くなっている。また、那覇市と接している東西に幹線道路が走り、交通の要衝となっているが、幹線から外れると、町民の交通手段は自家用車となる傾向にあり、高齢者や子ども、また観光客が移動する際に交通手段が乏しいといった課題がある。</p> <p>誰もが使いやすく、日常生活を支える相乗り型オンデマンド交通を定額で提供することで、持続可能な移動サービスを目指しており、今年の7月から実証運行を開始した。600名が利用登録し、延べ利用者数は4,000名となっている。この取り組みの効果を検証し、次年度以降につなげていくとのことである。</p> <p>上富田町でも取り組まれているが、各地の経験を取り入れ、白浜町の方式で取り組んでほしいと思った。</p> <p>○4か所のI Cがあり、広域交通ネットワークが構築されている町であり、今後も人口増が予想されているが高齢化も進んでいる。交通体系まちづくりを基本理念とした総合戦略の策定により、ユニバーサルデザインを推進し、安心安全な誰もが快適に移動しやすい交通体験のまちづくりを推進している。</p> <p>人口増による住宅地の道路ネットワークの必要性和地形の高低差による高齢者の移動手段確保が課題である。地域交通の現状は、人口や地形によつてのニーズが様々あり、現在A I オンデマンドの実証運行中である (m o b i の導入)</p> <p>実証実験の予約は、スマホアプリか電話で出来て、運賃は500円、回数券は6回2,500円、30日間乗り放題も5,000円と設定されていて、利用者には選択肢がある。白浜町の現在の地域限定の実証実験の検証から、生活道路運行へのヒントにならないか考える。</p>
----------------------------------	--

<p>委員所感 (意見・課題・本 町への反映など)</p>	<p>○誰もが快適に移動しやすい交通体系のまちづくりに非常に感心した。我が白浜町も高齢化による移動困難者への対応、地域内を運行する公共交通ネットワークの不足等、様々な課題を抱えている。</p> <p>今後、町の交通体系を構築していく中で、住民アンケートや地域でのワークショップを行う必要があると思われる。また、バス停までの移動やバス停での待ち時間、バスの本数や定時性、ルート不足、移動困難者への対応策の課題があるが、白浜町においても、ぜひルートや乗降場所、予約時間の自由な設定が可能なA I オンデマンドバス交通の実現に向けて考えていきたいと思った。</p>
---------------------------------------	---

(別紙)

## 調査内容及び概要

調査日	令和6年10月29日(火)
調査場所	沖縄県八重瀬町
調査事項	<p>◆南城市・八重瀬町地域間連携体プロジェクトについて</p> <p>令和4年度 沖縄県地域ビジネス力強化支援事業を活用し、南城市と八重瀬町、両市町の商工会、観光協会、地域企業で構成する「南城市・八重瀬町地域間連携体プロジェクト」に取り組んでいる。同プロジェクトは、市町村等の垣根を越えて協働し、地域資源の活用や地域課題の解決により、地域活性化を図ることを目的としている。また、両市町が連携した「お仕事体験プログラムの開発」、「大人の子育てOFFタイムプログラムの開発」、「イベント開催」を通じて、公共交通利用促進やOKICAカードにためたポイントでの買い物、滞在型観光プログラムの定着を目指しており、その取り組みについて調査する。</p>
概要及び調査内容	<p>◆町の基本情報</p> <p>(1)人口 33,074人(令和6年6月末現在)</p> <p>(2)面積 26.96㎢</p> <p>◆町の概要</p> <p>八重瀬町は、沖縄県本島の南に位置し、町域は東西に約6.6km、南北に約9.1kmで、総面積は26.96㎢である。県都那覇市に近く、町の北端は県庁から約4.7km、役場(本庁舎)までは約7kmで東西に国道331号、南北に国道507号が縦断している。また、全体として肥沃な土壌に恵まれており、農業の盛んなまちとして発展してきたが、那覇市に近い北部については都市化が進展しており、田園と都市が共存するまちとなっている。</p> <p>【行政調査の様子】</p> 

概要及び 調査内容	<p>◆南城市・八重瀬町地域間連携体プロジェクトについて</p> <p>【地域ビジネス力強化支援事業の概要】</p> <p>地域ビジネス力強化支援事業は、地域を支える中小企業の持続的発展のため、市町村等の垣根を越えて協働し、中小企業支援や地域活性化に向けた取り組みや、地域に根差した中小企業支援施策や地域活性化施策を生み出す仕組み、または基盤の構築等に取り組む地域間連携体の自立・持続化を図ることを目的としている。</p> <p>補助対象となるプロジェクトは、将来の自立・持続化に向けた展望を有する地域間連携体が実施する、地域資源の活用や地域課題の解決により中小企業の振興または地域活性化に資する事業となる。</p> <p>補助対象事業者は、県内の中小企業者を2者以上、地方公共団体を2者以上、公共的団体を1者以上の構成員で組織された「地域間連携体」とする。</p> <p>【地域間連携体プロジェクトの構成メンバーと役割】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>団体・企業名</th> <th>役割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>南城市</td> <td>地域資源情報の収集と提供、P J 監修</td> </tr> <tr> <td>南城市商工会</td> <td>参加希望者の募集支援、P R 支援</td> </tr> <tr> <td>(一社)南城市観光協会</td> <td>プログラム開発支援、P R 支援</td> </tr> <tr> <td>八重瀬町</td> <td>地域資源情報の収集と提供、P J 監修</td> </tr> <tr> <td>八重瀬町商工会</td> <td>参加希望者の募集支援、P R 支援</td> </tr> <tr> <td>(一社)八重瀬町観光物産協会</td> <td>プログラム開発支援、P R 支援</td> </tr> <tr> <td>イーストホームタウン(株)</td> <td>過年度P J との連携プログラム開発・実施</td> </tr> <tr> <td>(株)サウスポーグループ</td> <td>久高島プログラム開発・実施、プロジェクト推進支援</td> </tr> <tr> <td>ハッピーフラワー(株)</td> <td>事務局(プロジェクト企画・運営・経理、プログラム開発)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【地域間連携体プロジェクトのビジョン】</p> <p>①県内外の子どもたちが楽しみながら仕事観を養える体験型観光プログラムを開発し、定着を目指す。</p> <p>②交通系ICカードと連携した取り組みとすることで、公共交通利用活性による渋滞緩和へ寄与する。</p> <p>③地域の商業店舗で「お仕事ポイント」が使える、地域キャッシュレス化・活性化に貢献する。</p>	団体・企業名	役割	南城市	地域資源情報の収集と提供、P J 監修	南城市商工会	参加希望者の募集支援、P R 支援	(一社)南城市観光協会	プログラム開発支援、P R 支援	八重瀬町	地域資源情報の収集と提供、P J 監修	八重瀬町商工会	参加希望者の募集支援、P R 支援	(一社)八重瀬町観光物産協会	プログラム開発支援、P R 支援	イーストホームタウン(株)	過年度P J との連携プログラム開発・実施	(株)サウスポーグループ	久高島プログラム開発・実施、プロジェクト推進支援	ハッピーフラワー(株)	事務局(プロジェクト企画・運営・経理、プログラム開発)
	団体・企業名	役割																			
	南城市	地域資源情報の収集と提供、P J 監修																			
	南城市商工会	参加希望者の募集支援、P R 支援																			
	(一社)南城市観光協会	プログラム開発支援、P R 支援																			
	八重瀬町	地域資源情報の収集と提供、P J 監修																			
	八重瀬町商工会	参加希望者の募集支援、P R 支援																			
	(一社)八重瀬町観光物産協会	プログラム開発支援、P R 支援																			
	イーストホームタウン(株)	過年度P J との連携プログラム開発・実施																			
	(株)サウスポーグループ	久高島プログラム開発・実施、プロジェクト推進支援																			
ハッピーフラワー(株)	事務局(プロジェクト企画・運営・経理、プログラム開発)																				

<p>概要及び 調査内容</p>	<p><b>【プロジェクトの概要】</b></p> <p>①中小企業等の仕事や体験を「お仕事体験プログラム」として有償化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に眠っている資産（人材、歴史、文化等）を活用して、これまでになく有償お仕事体験プログラムや大人の子育て OFF タイムを開発し、イベントを開催。地域課題の一つである「素通り観光」から「体験型観光」へのシフトを促す。</li> </ul> <p>&lt;体験プログラムの一例&gt;</p> <p><b>【素潜り漁】×【箱メガネ作り】→【海人と猟師飯作りの仕事体験】</b>  <b>【港川遺跡】×【サバイバル技術】→【港川人キャンププログラム】</b>  <b>【紅型体験】×【P J チーム】→【紅型作家体験（商品づくり）】</b>  など</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②電子マネーポイント付与</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事観やお金の教育（仕事をするとお給料がもらえるという体験）</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③公共交通利用促進イベント化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通を利用して2つ以上のプログラムに参加することで、ボーナスポイントを取得</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>④地域商業店舗の新たな売上創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OKICA 電子マネーが使える地域協力店で買物体験</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>⑤EBPMへの寄与</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OKICA 移動/利用データの分析と提供</li> <li>・WEB アクセスデータの分析と提供</li> </ul> <p><b>【地域への波及効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域事業者と協働し、プログラムやPRツール開発、イベント開催、プロモーションを実施。それぞれに売上げを創出した。</li> <li>・「RYUGIN GOOD NEWS/沖縄テレビ」がこの取り組みを取材放映したことで、地域事業者に広く認知してもらうことができ、次年度以降のお仕事体験プログラムの開発に弾みがついた。</li> </ul> <p><b>【自立持続化への取り組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発したお仕事体験プログラムは、将来の自立持続化を意識し、当初から参加料を徴収している。</li> <li>・今後、連携する自治体を増やし、適時プログラムやイベントの追加を行い、自走化を目指していく。</li> </ul>
----------------------	--

<p>委員長所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<p>○今回調査した「南城市・八重山町地域間連携体プロジェクト」は、2022年度(令和4年度)から取り組まれている事業であり、この事業では、南城市と八重瀬町、両市町の商工会、観光協会、地域企業が「南城市・八重山町地域間連携体プロジェクト」を構成し、市町村等の垣根を超えて協働し、地域資源の活用や地域課題の解決により、地域活性化を図ることを主な目的としている。</p> <p>このプロジェクトを立ち上げた根拠は、①地域に眠っている資産(人材、歴史、文化等)を活用して、従来までなかった有償お仕事体験プログラムや大人の子育てOFFタイムを開発し、イベントを開催すること。また、地域課題の一つである「素通り観光」から「体験型観光」へのシフトを促すこと。②体験プログラムの開発を通じて、新たな商品の開発、南の駅やえせ等での販売まで一貫して行うこと。③地域の宿泊施設と連携し、滞在型観光メニューのコンテンツ提供に貢献することが挙げられている。特に、新たな観光資源を創り出し、交流関係人口の増加、長期滞在型観光プログラムの定着を目指している。</p> <p>当日は、体験型観光の一つ「ハンドクリーム制作」に参加させていただき、今後の地域間連携体プロジェクトを模索して行く上で、貴重な体験となった。</p>
<p>委員所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<p>○地方が抱える課題は似たようなところがあり、こちらの自治体でも地域資源の活用や地域活性化に向け、ビジネス力強化支援事業から交付金を得て、地域間で連携するプロジェクトに取り組んでいる。プロジェクト名は「町がまるごとアクティビティ！未来をつなぐプロジェクト」として、様々な体験型観光プログラムが用意されていた。</p> <p>私たち委員会は、その中でハンドクリームを作るアクティビティに参加した(他の体験もあったが、限られた時間で選択肢は少なかった)。冒頭、プロジェクト統括責任者の江川氏から全体の説明を受け、その後ハンドクリーム体験の古波蔵氏の指導の下、楽しく体験することができた。ここで感じたのは、地域を活性化させるため、各自治体では試行錯誤をされているが、江川氏、古波蔵氏ともに沖縄県外出身であることと、様々な経歴の持ち主であること。地元ではなく外部から見た町の魅力をどう生かすかの視点や、経験を持っておられる人材を登用することも必要だと感じた。</p> <p>白浜町においても、人手不足、人材がない。どの会議に出ても同じメンバーだと私も感じたことがあり、広い知見のある人材を効率よく活用することを考えたほうが良いと感じた。ただ、受け入れに際しては、その町が持つ習わしや決まりごとをゼロにする覚悟も必要となりそうで、寛容さも求められそう。いずれにしても出来ることからとんとんと取り組んで、難しければすぐに撤退して、次の事業を模索する行動力が必要だと感じた。</p>

<p>委員所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<p>○県の支援のもと、南城市と八重瀬町の強み・弱みを出す中で、地域間の垣根を越え、連携した取り組みをしている。</p> <p>入域してきた観光客に自ら「体験」をしていただくことを売りにしている。こうした取り組みで沖縄を知ってもらおうということ。遊びやものづくりを通じて、遊び体験も様々な角度からアプローチしてもらおうよう、いろいろ用意している。少ない時間の中、ハンドクリーム作りの体験もした。白浜町でもこうした体験教室ができるのではないかと感じた。</p> <p>○両市町の商工会、観光協会、地域企業で構成する「南城市・八重瀬町地域間連携体」によるプロジェクト「町がまるごとアクティビティ！未来をつなぐプロジェクト」が始動して2年になるが、進捗について調査を行った。令和4年沖縄地域ビジネス力育成強化事業を活用し、地域資源の活用や地域課題の解決に市町の垣根を越えて協働し、課題解決を図っている。</p> <p>お仕事体験プログラムの開発、イベントの開催など、公共交通の利用促進やOKICAカードにためたポイントでの買い物、滞在型観光の定着を目指している。体験メニューでは、自然の香料を使ったハンドクリームの制作を行った。南の駅やえせでは、地場製品の展示即売ブースの見学を行ったが、ここは学生の休息の場にもなっている。</p> <p>○市町村や組織の垣根を越えたオープンイノベーション体制で、主に南沖縄エリアの地域資源を生かした新たな学習型、滞在型のサービスやオリジナル商品の開発をしつつ、イベント開発を通じて、南沖縄エリアの新たなファンやサポーターの獲得に努力しているとのこと。</p> <p>今回、自然科学のお仕事体験として、ハンドクリーム作りを体験した。その際に、白浜町椿地区で採れる椿油をハンドクリーム作りの精油に入れてはどうかと提案し、後日、椿油を送付した。白浜町の地域資源を取り入れて、アクティビティがどのように変化していくのか、今後が楽しみである。</p> <p>白浜町で遊んで、本当の自然通になれる方法を関係者と連携して考えていきたい。</p>
----------------------------------	--